

第1回第五中学校区地元代表者協議会 会議録

1 日 時 令和4年11月15日（水）18時31分～20時03分

2 場 所 松川コミュニティセンター 研修室

3 出席者 （1）委員 16名

（2）事務局 教育指導部長 山口 玲子

教育総務課長 高橋 利明

学校教育課長 植木 修

学校教育課 適正規模適正配置推進室長 樋口 進一

学校教育課 主事 田村 美佐保

4 内 容

（1）開会

（2）委嘱状交付

（3）あいさつ 教育指導部長

（4）自己紹介 委員および事務局

（5）会長及び副会長の選出（会長 佐藤俊弘委員、副会長 山田登委員）

（6）統合に係る意見書の取りまとめについて

（7）協議

①米沢市立学校適正規模・適正配置推進等基本計画について

②地元代表者協議会の進め方について

③統合について

（8）第2回協議会の開催日程について

（9）閉会

（会 長）初めに「①米沢市立学校適正規模・適正配置推進等基本計画について」説明をお願いします。

《事務局から説明》

（会 長）以上の説明について、質問はいかがか。

《 質問なし 》

（会 長）次に、「②地元代表者協議会の進め方について」説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

（会 長）以上の説明について、質問はいかがか。

《 質問なし 》

（会 長）では次に、「③統合に向けて」について説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

（会 長）以上の説明について、質問や意見はいかがか。

（委 員）関根小と松川小が統合したときに一番感じたことを話したい。関根小の児童は、新年度当初学校環境も変わるので緊張していたが、受入側の松川小学校において

転校生を受け入れるということではなく、みんなで新しい学校を作っていこうという雰囲気であったことがとても印象的だった。松川小学校では、みんな同じ気持ちでスタートするためにすべての学年でクラス替えを実施し、内履きを関根小で使用していたものに合わせ、学校指定とした。できれば第一中学校の校長にも統合までの2年間で受入側としての雰囲気作りをお願いしたい。松川小学校山上地区保護者会は昨年度発足したが、学校統合においては子ども達だけでなく保護者の不安も大きいということで学校との懸け橋となるよう立ち上げた。子ども達はすぐ慣れたが、保護者の不安が大きかったようで2学期始め頃までたくさん相談を受けた。中学校の統合にあたっても保護者のサポートを考えていかなければならないと思う。第五中学校は地区ごとに団体があるようだが、統合となった場合に地区の保護者組織などはどうなるのか。制服の件については今年の9月頃に、来年度の新入学生が一中の制服になるということを初めて聞いた。五中の新入生説明会で説明があるのかもしれないが、現6年生は中学校3年生で統合することもあり不安が大きいため、方向性や決まっていることがあれば文書でお知らせを出すなどのことで、保護者の不安も少しは軽減すると思う。今日会議があることすら松川小PTA会長は知らないようで、統合に関する相談があっても答えられないと聞いた。

(事務局) 行く側の不安を受け入れ側がどのくらい理解するのが大事だと思う。関根小と松川小の統合前は子ども達の交流はできたが、感染症が拡大していた中で保護者の交流がなかなかできなかった。様々な部分について、五中と一中で情報共有や話し合いを十分にしておいて、子ども同士、保護者同士の関わりを作り、少しでも不安を解消できたらと考えている。組織等についてはこれからすり合わせをしていく必要がある。大きい中学校同士の統合は初めてであるため、この統合がモデルになるようになっていければ良いと思う。現小学校の保護者への説明が不足していることは申し訳ない。昨年、小学校で説明会は開催したが、保護者の理解や実感を持ってもらえるような説明ができなかったのかもしれないと感じている。

(委員) 教育後援会は中学校の活動に対しての資金を地域全体で負担して出しているものだ。会費は1戸1年400円で、町内会でまとめて出してもらっていて、年間100万円ぐらい集まっている。主に部活の遠征費や学校備品の資金、式典の積み立て等に使っている。教育後援会は現在、五中と七中にあるようだ。一中にはないと聞いている。教育後援会への負担金が無くなれば町内会の負担はなくなると思うが、せっかくあるものをなくすのは勿体無いと思う。東部地区とも地区委員を通して話したいと思ったが、まだ実現していない。

(会長) 本来、教育後援会は高等学校にあるような組織である。文化、スポーツ活動のバックアップをしている。統合にかかりこのような組織をどうしていくかとい

うのは地域同士の話し合いになっていくと思う。

(委員) 一中には教育後援会はなく、地区からお金は出していないようだった。教育後援会については、学校が統合になるときに話し合っていく必要があると思う。そのお金がないと学校活動ができないというわけではないと思うし、一中にはない活動であるため、今後の統合準備委員会で話していくべきだと思う。

(委員) 孫が松川小6年である。先月の説明会で来年度一年生の制服について一中の制服を検討しているという話があった。孫も非常に不安があると言っていた。2年間は五中で、1年間は一中で過ごすことになるが、学校は五中の施設に行くが外見は一中ということで不安があるようだ。中学校という年々大人になっていく年代で、不安を抱えた子ども達が実のある学校生活を送れるのだろうかと思う。当事者のケアをしていく必要がある。子ども達にも一中の情報だけでなく、他の学校の情報も丁寧に説明し、子ども達の気持ちを緩和できるような学校の指導をお願いしたい。

(会長) 教育委員会として子供たちへのケアをしっかりと考えていってほしい。

(会長) 他に質問はいかがか。では、無ければ以上で協議終了とする。

(事務局) 次回の会議に向けて、通学について各地区の実情や心配される点などを聞いてきていただきたい。国からは遠距離通学の基準として、中学生は6キロ、小学生は4キロと出されているが、地区の状況に合わせて検討していきたいと考えている。

(委員) 9月の説明会の時にサイクリングロードの照明が無く、暗くて危ないという意見が出ていたと思うが、それについてはどうなっているのか。前にあった意見について、このように進んでいるという話であれば理解できるが、何回も出ている件についてはしっかり考えていただきたい。

(事務局) 次回の日程についてだが、12月20日火曜日18時30分で設定させていただければと考えている。改めて書面でお知らせする。

以上で第1回第五中学校区地元代表者協議会を終了します。